

# 県立大学改革について

## 1 基本的な考え方

- ・ 保健・医療・福祉分野の整備は、急ぐべき課題。
  - ・ これに加えて、新しく 5 項目の配慮が必要。
- (1) 人口減少に対応する本県の高等教育機関のあり方を考えた時、県立大学と公立大学法人化に向けて検討を進めている高知工科大学の連携による大学運営を考える必要がある。
  - (2) 県内学生の進学希望が多い反面、教育の場が少ない社会科学系学部の整備は、若者の県外流出防止のためにも必要である。
  - (3) 県内産業の振興のためには、経営能力のある人材の養成が必要であり、そのためには社会科学系学部を設置し、社会人教育を充実する必要がある。
  - (4) 高齢化社会や地球環境保護の観点から高知市が進めていますコンパクトシティの考え方や、中心市街地の活性化については、県と高知市にとり重要な課題であり、県、市連携のうえからも、永国寺キャンパスの活用が必要である。
  - (5) 厳しい財政状況の中で、徹底した財政負担の軽減が必要である。

## 2 県が関与する大学のキャンパスの方向性

- (1) 池キャンパスは、保健・医療・福祉のキャンパスとして、隣接する高知医療センターと連携し、日本一の健康長寿県を目指して人材育成を行う。
- (2) 永国寺キャンパスは、社会貢献をする「知の拠点」のキャンパスとして、社会科学系教育や、社会人教育、生涯教育を充実する。その中で、人づくり、特に県内産業の振興に貢献する経営能力の高い人材を育成する。
- (3) 香美市キャンパスは、工学、産業振興のキャンパスとして、産業振興による県勢の浮揚に寄与する人材を育成する。

## 3 県立大学のキャンパス整備の方向

### (1) 池キャンパス

保健・医療・福祉のキャンパス「日本一の健康長寿県づくりの拠点」

- ・ 入学定員の増

看護学部            45人→80人

社会福祉学部       30人→70人

健康栄養学部 20人→40人

永国寺キャンパス生活科学部健康栄養学科を学部昇格し、キャンパス移転。

- ・ 特色のある教育体制

医療センターとの連携、3学部間連携教育プログラムの実践などにより、特色ある教育を行うことで、学生確保にもつながる魅力的な教育体制を作る。

学部拡充に併せて大学院教育を充実し、看護教育等の高度化を図る。

## (2) 永国寺キャンパス

### 社会貢献をする「知の拠点」のキャンパス

- ・ 社会科学系学部の設置

高知工科大学と連携した社会科学系教育の場を整備し、社会人教育も展開する中で、県経済の活力再生のために役立つ人材育成を行う。

- ・ 文化学部

永国寺キャンパスに存続し、生涯教育等を拡充する。

- ・ 生活科学部

生活科学部は改組・転換することとし、環境理学科、生活デザイン学科は、その教育研究実績や人的資源の活用を検討していく。在学生は、卒業するまでは永国寺キャンパスに在学する。

健康栄養学科は学部昇格し、池キャンパスに移転。

- ・ 短期大学

当面存続し、新たな社会科学系教育の場の整備にあわせて、そのあり方を検討する。

## 4 今後の進め方

- ・ 7月議会でご審議をいただき、ご意見を踏まえて、9月議会で池キャンパスの関連整備予算を提案したいとの考え。